

TOPPOS

TOKIWA POST

VOL. 34
SUMMER

常磐大学
大学院 国際学部
人間科学部 国際学部
コミュニティ振興学部
常磐短期大学

常磐大学高等学校
常磐短期大学 附属幼稚園

[2004.6.30]

発行/学校法人 常磐学園 編集/学園報編集室 水戸市見和1丁目430-1 電話 029(232)0007 http://www.tokiwa.ac.jp/



今年の4月から、国際学部に英米語学科が誕生した。スタートして間もない新学科についてどう感じているのか、授業の感想や、これからの抱負などについて、1年生6人に話してもらった。



常磐大学国際学部英米語学科スタート▼▼▼新一年生にインタビュー 四年後には、「英語のプロ」になる!

Department of English and American Studies



コルラボ教室

ま すは、英米語学科の要となる「英語」の授業についての感想から聞こう。
「先生が英語だけしか話さないのがとても印象的でした」と語るのは、新堀真央さん。最初に授業を受けたときは、先生だけでなく、学生も含めてクラス全員が「日本語厳禁」だったことに誰もが驚いたそう。しかし、「高校の受験英語に幻滅していたので、英語だけの授業はともありがたい」と土谷正之さんは話す。「英語圏で生活した方が英語は上達すると思うので、それと同じ環境で勉強できる」と高村周平さん。今話を聞いた1年生は、機会があれば海外で学んでみたいという人がほとんどなので、この意見には誰もがうなずいていた。
まだ始まって間もない時期だったため、講義の具体的な内容について聞くことはできなかったが、授業のスタイルや進め方については全員が満足している。「これからの授業が楽しみ」と口を揃えて答えてくれた。

では、これからどんなことを勉強していきたいのか、高校まで英検を受け続けてきた山口美帆さんは、「留学したい」と思っているので、TOEFLの勉強も始めたい」と抱負を語る。磯野友美さんは「イギリスに行きたい」と思っているため、米語と英語の違いについても学んでおきたい」という。
英米語学科では日本からの留学だけでなく、海外からも大学生を招く予定があり、今秋にもアメリカから留学生がやってくる。山根千登勢さんは、「留学生と友達になって、国際交流会館でぜひ一緒に生活してみたい」とその日を心待ちにしている。常磐キャンパスにいながら、英会話の練習ができる絶好の機会となるだろう。

将 来に関して、今回のメンバーは「英語の先生になりたい」という希望が多い。土谷さんは、オープンキャンパスで中学校と高校の英語教員の資格が取れることを知り、この学科を選んだ。磯野さんは、中学のときのALT(Assistant Language Teacher)の影響で英語を好きになった。だから将来はその先生のように「語学だけでなく文化も伝えていけるような先生になりたい」という。また、英米語学科では、教員免許状のほか、児童英語指導者の認定書も取得できる予定だ。山口さんは中学校教諭の免許状も取るつもりだが、この認定書も取得して「将来はもっと小さな子どもたちに英語を教えていきたい」と話す。
その他、「自分の好きな英語を極めて、将来に活かしたい」という高村さん、「英語をマスターしたら、海外でボランティア活動もしてみたい」という新堀さん、「将来は航空会社に働きたいので、どついても英語が必要」という山根さんなど、英語を学ぶことに誰もがはつきりとした目的を持ち、意欲的に取り組んでいる。
今回インタビューに答えてくれたみんなが、どのように成長していくのか、数年後がとも楽しみだ。

シリーズ34 キンシバイ 夏の景色に浮かび上がる、鮮やかな黄色い花。



中国南西部に広く分布する落葉低木で、日本には一七六〇年(宝暦十年)に伝わったそうです。現在は北海道を除く日本各地の庭園、公園などに植えられており、野生化したものも見られます。
花期は六月から八月頃。枝先に咲かせる直径約三センチの花は、とても鮮やかな黄色で、光が当たると金色と見まがうほどです。長い雄しべがキンシ(金の糸)のように見え、ふつくとした花弁がウメ(梅)に似ているところからキンシバイ(金糸梅)という名が付られました。
高さは約一メートルになり、根元から分かれるたくさんの枝は、ややしだれぎみ。葉は長さ約二センチの卵状長楕円形で、ひと枝に六から七対つけています。
同じオトギリソウ科のピヨウヤナギと似ていますが、雄しべが花弁より短く、花が開ききらないお盆形のものがキンシバイです。
もうじき、本格的な夏がやってきます。キンシバイは本学園内で見ることができ、清々しい黄色い花を眺めながら、暑さを忘れるひとときを楽しんでみてはいかがでしょうか。

常磐の四季

地域に貢献する 新フィールドで活躍!

就職特集 ●コミュニティ振興学部卒業生インタビュー

大きな変革期を迎えている現在の日本社会。その中で、仕事のフィールドも幅の広がりを見せている。これからの社会に必要とされる仕事とは何か。新しい仕事の分野で活躍する、今年の卒業生2人に話を聞いた。



寺田 明子 屏風ヶ浦病院・医療相談室勤務
●コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科卒

医療関係の仕事に興味を持ったのは小学校のとき。祖母が病気で入院して家族が入院するということがすごく大変なことだったので実感したことがきっかけです。それで、より家族に近い立場で仕事ができるMSW(医療ソーシャルワーカー)の仕事を選びました。現在、私が担当しているのは、入院相談の受付や退院援助が中心です。だから、いま勉強しているのは、その際に必要となる面接技法など。実践を重



岡崎 奈央子 茨城県社会福祉協議会・わくわく事業推進部勤務
●コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科卒

私の仕事は、主にサラリーマンの生きがいを支援することです。具体的には、高齢者向けに歴史、絵画、陶芸、園芸などの講座を開催する事業を担当しています。この仕事に興味を持ったきっかけは、社会福祉士の資格を取得するために勉強していたとき、私が担当する講座のように、茨城県の社会福祉協議会が独自に展開している事業を知ったこと。興味が湧いて、自分も携わりたと思ったんです。

ねないと身に付けられないことも多く大変ですが、まずはできることから努力しています。例えば、普段からの話し方。職場でも患者様のご家族でも、年上の方と接する時はとても話し方に気を使います。一つ一つの言葉が、病院の職員として、またMSWとしての責任を伴うものなので、不確かなことは話せません。学生時代には、経験することのなかった緊張感ですね(笑)。現在の目標は、いまやるべきことをしっかりとやり、早く一人前のMSWになること。将来的には「MSWって何をやる人?」なんて言われないよう、多くの人に認識してもらいたいですが、就職活動では、とにかく行動力が大切だと思います。自分が何をしたいか、何を一番優先するのかをはっきりさせて、活動に励んでください。

本学卒業生十名が 社会福祉士の資格を取得!

社会福祉士国家試験において、コミュニティ振興学部の学生十名が合格。茨城県社会福祉協議会や各市町村をはじめ、社会福祉施設や社会福祉作業所などで、社会福祉士の資格を活かしながら活躍している。

社会福祉士とは、社会福祉に関する専門知識及び技能を持って障害を持つ人の相談に応じ、それらの人々が安心した社会生活をおくれるよう、助言、指導、その他必要な援助を行う専門家。一般的にはソーシャルワーカーと呼ばれている。

通常の大学で学んだ学生に関しては、受験資格として、6月から一年の実務経験が必要となるが、本学コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科を卒業することで、卒業と同時に国家試験受験資格を得ることができる。

仕事に就いて戸惑っている点は、自分よりはるかに年上の方を対象としているため、若いというだけでなかなか信用してもらえないこと。だから自分の言動や行動には責任を持って、早く認めてもらおうと努力しています。仕事で一番喜びを感じるのは、自分が担当したイベントが無事に終わったとき。参加者の募集や案内書の作成など、当日までの全てを一人でこなすため苦労も多いんですが、それだけに喜びもひとしお感じてます(笑)。

皆さんも就職活動だけを頑張るのではなく、その前の期間に、たくさんいろんな経験ができるよう頑張ってください。その期間が面接や小論文などの試験に役立つんだと思います。面接は答えるのではなく、自分の考えを伝えることが大切ですからね!

国際集 学生たちに国際交流の機会を!

世界の中での日本が注目される今日、本学でも、真の国際人を育成するためにさまざまな取り組みを行っている。その中でも最も大きいイベントと言えるのが、今年九月に実施される「交換留学生の受け入れ」だ。この交換留

学生は、本学と提携したアメリカ・カリフォルニア州立大学ノースリッジ校とフレズノ校より選出された六名の学生たちで、男子四名、女子二名が秋 semesterの四カ月半、日本語および日本文化を本学で学ぶ。それに伴い国際センターでは、交換留学生と本学学生とが英会話活動を行う「トキワ・イングリッシュ・コネクションズ」や、留学生の日本語学習をサポートする「日本語ボランティアアチャター」、さらに「国際交流会館ルームメイト」など、多くの交流活動を企画している。

また海外研修として、三つの語学研修プログラムも用意している。内容はそれぞれカリフォルニア大学アーバイン校で四週間の英語研修、イギリス・チェスターカレッジで三週間の英語研修、さらに中国語研修として北京語

第二外語学院で約二週間となり、どのプログラムも短大の学生が参加できる。

さらに、学生とネイティブ教員が外国語で会話を楽しむ「Talk Time」も好評だ。この企画は、火曜日と水曜日に英会話、金曜日には中国語会話を実施。「昼休みに、国際センターで行っているので気軽に覗いてほしい」ということだ。



「Talk Time」には本学生なら誰でも参加できる。



使える語学力を身に付ける海外語学研修プログラム。

ドメスティック・バイオレンスを考える。

常磐大学国際被害者学研究所・第2回講演会開催
研究所は、五月二十六日、第二回講演会を開催した。場所は本学H棟。講師としてお招きしたのは、カリフォルニア州立大学フレズノ校教授で社会科学部副学部長のハーヴィー・ウォレス博士。ウォレス博士は、カリフォルニア州立大学フレズノ校で犯罪学を修めた後、カリフォルニア・ウェスタン法科大学院を修了。同州内の市や郡で犯罪防止、被害者支援、警察行政などに関する法務に長年携わり、一九九二年よりカリフォルニア州立大学フレズノ校犯罪学教授に就任。現在は、家庭内暴力や被害者学、刑事司法制



本学生の他、全国各地からも聴講者が集まった。

度に関する著書や論文を数多く発表するスペシャリストだ。この日のテーマは「ドメスティック・バイオレンス アメリカの視点から」。ウォレス博士は、アメリカにおけるドメスティック・バイオレンス(DV/家庭内暴力)の定義や調査・統計の現状を説明した上で、多



くのDVに共通する特徴や形態、そして配偶者間暴力、高齢者虐待について解説。さらに、DVに対するアメリカでの刑事司法の対応を歴史を追って紹介し、最後に被害者の権利に言及して講演を終了した。

質疑応答では、全国各地から集まった聴講者から、活発に専門的な質問が寄せられ、深刻化を増す日本のDVを考える、良い機会となった。

講演会の翌日には「DV対策-確かな実践に向けて」というテーマのセミナーやDV被害者支援ワークショップも開催され、DVに関するさまざまな問題を掘り下げた。

Circle サークル紹介 Flash!

第16回
スター☆ピース

天体観測を通して 地域の人々と コミュニケーション

壮大な夢とロマンを人類に与えてくれる宇宙。そこで繰り広げられる神秘的なドラマを、観測・研究しているのが天文愛好会『スターピース』だ。今年度発足という、まだ生まれだてのサークルだが、実質的な活動が始まったのは昨年の夏。生涯学習センターが行った火星観測会のスタッフとして、メンバーが集まった。その後も生涯学習センターと



ンクした活動を行い、現在までに三丁四回程度、天体観測会の手伝いとして参加している。天体観測会での具体的な活動内容は、一般参加者の受付や誘導はもちろ



昨年の夏に行われた火星観測会

ろん、天体望遠鏡の操作や天体の説明など。また、教室で行われる天体講座などでは、使用するパネルの作成をはじめ、実際に天体の解説まで担当することもある。こうした一般参加者のコミュニケーションも、スターピースの魅力のひとつ。

こうした活動がメインとなっているのには理由がある。それは生涯学習を実践的に学ぶことも、このサークルのテーマのひとつとなっているからだ。天体観測を通して生涯学習の現場を体験する。つまり、天体に関心がある人も生涯学習に関心がある人も、どちらも楽しめるサークルということだ。

「自分がそうだったように、小さい子どもたちが天体を面白がってくれるのが何よりも嬉しいです」と語るのは、部長を務めるコミュニケーション振興学部コミュニケーション2年・奥村健さん。副部長を務めるコミュニケーション2年・鈴木祐美子さんは「これからは、生涯学習のお手伝い以外の活動も充実させていきたいですね。サークルに入るといふより、一緒にサークルを作っていく方、待っています」と意欲的だ。

発足したばかりのスターピースにとって、今年は挑戦の年。来年に向けて、大きな飛躍を期待したい。



優勝トロフィーを手にする加藤選手。

F1という、世界最速の舞台を目指して!

2004年JAF・F4選手権で年間優勝に王手をかける加藤正将選手。本学のOBである加藤さんに夢に賭ける思いを聞いた!

KIRARIBITO-SPECIAL

加藤 正将 レーシングカー・ドライバー
国際学部国際ビジネス学科 卒
(茨城県立勝田高校出身)

1を頂点とする、フォーミュラカーレース。そのF4(エフ・フォー)というカテゴリで、現在、東日本最速を誇るドライバーがいる。本学国際学部国際ビジネス学科OBの加藤正将選手だ。加藤さんは十九歳でF4にデビューし、昨年は年間シリーズで第二位を獲得。今シーズンは一戦二戦と優勝し、残り四戦中あと二つ勝てば、今シーズン年間優勝が決定する。そして、二〇〇四年六月六日、ツイリンクもてぎで、勝てば年間タイトルに王手をかける、JAF東日本F4選手権第三戦が開催された。

「勝つためには、妥協しないことです。修正の必要を感じていても、危ないからいや...で我慢しちゃって、それ以上早く走れない。少しだけリスクを背負って攻めていくことで、良いクルマができるしドライバーも速くなる。それに、レースは2度と同じシチュエーションがありません。タイヤやマシンの状態によって、微妙にブレーキポイントやライン取りが違ってくる。標高が高いコースでは、酸素が薄くなっている。それをメカニックと一緒にセッティングしていくのも、ドライバーという仕事の魅力ですね」



取材協力 関彰商事株式会社 <http://www.sekisho.co.jp> ツインリンクもてぎ <http://www.twining.jp> 石原水産株式会社 <http://www.ishiharasuisan.co.jp>

それくらいは自己暗示をかけないと、勝つことはできない世界ですから」

加藤さんはモータースポーツをビジネスの視点からも捉えている。「年間をフルに戦うためには、莫大な予算が必要です。そこで必要になるのがスポンサー。現在は地元『関彰商事』さんと静岡県の『石原水産』さんに応援していただいています」

このスポンサーの獲得に、本学で学んだことが非常に役に立った。

「F4をはじめた頃、スポンサーの獲得に行き詰まっていた。そんな時、国際学部・小川明先生の講義を聴く機会があったんです。授業が終わったあと、自分で作成した企画書を持って、すぐに小川先生の研究室に行きましたね。この企画書を見てくださって(笑)。それから小川先生のゼミに入って、プレゼンテーションやマーケティングなど、さまざまなことを教えていただきました。いまこうしていただける

のも、小川先生のおかげです」

そしていま加藤さんは、自分の夢に向かって大きく羽ばたいている。

「皆さんも夢を諦めないでください。自分の五年後、十年後をしっかりとイメージして、挑戦することが大切です」

この日のレース結果は、加藤選手のポール・トゥー・ウィン。F1へのステップを、また一つクリアした。



スタート直前、最も緊張する瞬間だ。

標本を使い実践的に行われる授業



博物館は膨大な知識を収蔵する、ひとつの大きなデータベース。しかし、そのデータが十分に活用されているかという点が残念ながら日本では、バックグラウンドの整備が遅れている。知識社会をつくるため、日本の博物館にいま求められていることは、情報の流れを促進させる『資料記述の標準化』だ。

資料記述の『標準化』で学際的な情報をつくる

博物館の情報標準化し世界的な知識社会をつくる

コミュニケーション 水嶋英治教授に聞く

博物館情報学 / 標準化とは

「共通の言語を作るわけですが、資料記述をいかにして作り直そうというわけではありませぬ。現在ISO(世界標準化機構)に乗せるため、美術館、歴史館、博物館の関係者が国際レベルで検討していますが、それぞれのデータベースはすでに出来上がっている。そこで、ここが一致するところを、つまり『私が持っている言語』を『あなたが持っている言語』に変換させるためのルールづくりです」

情報の流通を促進させ世界的な知識社会を創造

「古代の美術品を探している美術関係者が、『こいつは作品はありますか』と考古学者に聞いたとします。そこで、『いや、ウチには遺物しかありません』と答えられては話にならない。資料記述の標準化とは、誰もが認識できる共通言語を導き出すことでもあるのだ。」

「例えば資料を指す記述言語ひとつをとっても、美術品だったら作品、自然科学系の資料であれば標本、民俗学的なものであれば民具、さらに考古学的なものは遺物と言ったりします。そこで情報の効率性を高めるために、資料記述の標準化をしようという試みが始まったわけです」

「私たちは、データと情報と知識は別のもので認識しています。簡単に言うとデータは大きさや重さ、またその資料の歴史など調べれば分かるもの。情報は対象となる資料が持つ固有の特性など、それを知識レベルにするためには、文化的な意味や社会的背景なども必要です。データレベルでは概ね同意を得られますが、情報レベルではどうか、知識レベルではどうかと検討すると、これがなかなか大変です」

記述内容を標準化するためのルールづくりは、さらに困難を極める

「博物館や美術館では、ひとつのまとまりをコレクションと言います。しかし図書館ではシリーズ、そして文書館ではフォンドと呼んでいます。これはそれぞれ、『まとまり』に対するコンセプトが違うからで、標準化することは難しいですね」

「近代美術館の収蔵庫は、地下に非常に厚いコンクリートで作られています。そしてその中に校倉造りの建物が設置されていて、そこに作品が納められている。これは地震や湿度対策、また、コンクリートから出るアルカリ性の揮発成分から作品を守る意味もあります。一般の人は普段は決して入れない場所でもあり、学生たちにとっては見てみたいけれど、デジタルだけで質感の分からない話をするよりも、現場に連れて行って見た方がためになる場合もあるんです。情報の保存と物理的の保存を、バランス良く学ぶことが大切なのではないのでしょうか。全てがコンピュータで処理できるとしたら、大間違いです」



Profile

みずしま えいじ
東京理科大学理工学部卒業 卒業後 科学技術館学芸員として勤務。仏国立科学センター研究員、仏国立文化財院修了。フランス国立科学産業博物館国際開発局勤務。平成十五年十月より現職。

「まず、情報の流通がよくありません。その効果の一例を上げると、盗品や密輸品の特定がしやすくなるでしょう。それから、自分が持っている情報や知識や経験を博物館に還元すると、それが世界中に共通の言語でフィードバックされる。つまり、世界的な知識社会になっていくと考えられます」

現場主義の立場から体験的に学ぶ物質的保存

「近代美術館の収蔵庫は、地下に非常に厚いコンクリートで作られています。そしてその中に校倉造りの建物が設置されていて、そこに作品が納められている。これは地震や湿度対策、また、コンクリートから出るアルカリ性の揮発成分から作品を守る意味もあります。一般の人は普段は決して入れない場所でもあり、学生たちにとっては見てみたいけれど、デジタルだけで質感の分からない話をするよりも、現場に連れて行って見た方がためになる場合もあるんです。情報の保存と物理的の保存を、バランス良く学ぶことが大切なのではないのでしょうか。全てがコンピュータで処理できるとしたら、大間違いです」

「博物館情報学は博物館のことだけではなく、美術や考古学などさまざまなことを知る必要があります。だから学生たちは、いろんなことに好奇心を持って、自らデザインできるクリエイターになってほしいと思っています。博物館での展示や保存はもちろぬ、情報をデザインすることもそのひとつです。古いものから学び取って新しい知識を社会に還元してもらいたいですね。文化を次世代に保存し標準化すること、これは、未来の知識社会を創造することに繋がっている。」

編集後記

アメリカで開催されたサミット(主要先進国首脳会議)、自衛隊の多国籍軍参加問題、小泉首相二度目の北朝鮮訪問...。かつてこれほどまでに世界の中の『日本』を痛感させられる時代があったのだろうか。課題となるテーマはさまざまだが、あらゆる局面で、日本は国際的なスタンスを明確にする必要がある。



華やかなパーティーとなった懇談会

平成十六年度 / 常磐大学 同窓会・懇談会開催
 成十六年度・常磐大学同窓会総会および懇談会が、六月十二日、水戸京成ホテルで開催され、約九十名の卒業生が一堂に会した。総会は同窓会会長挨拶に引き続き、常磐大学・短期大学学長である大堀哲名学長会長の挨拶。大堀学長は「同窓会を活性化させるため、大学院・大学・短大・高校・幼稚園をひとつにした『連合同窓会』を組織することを考えている」とした上で、「大学を取り巻く状況は決して良くはないが、同窓生と教職員が一丸となって大学を盛り上げて行ってもらいたい」と期待感も表していた。

続いて議長指名、議事へと総会は進行し、昨年度の大学創立二十周年記念のに行われたテント二

連合同窓会を組織し、さらなる活性化を図る!

こうした国際化の時代に対応する人材を育成するため、本学でもさまざまな取り組みを行っている。国際学部新設した「英米語学科」、昼休みを活用した「トーク・タイム」、そして交換留学生の受け入れや短期留学の実施がそれだ。また今回取材したF4ドライバー加藤さんのように、個人の能力で世界を目指す卒業生も出てきている。国際社会で活躍する人材が、本学から誕生する日もそう遠くはない。

十張の寄贈や入会状況の報告、また大堀学長会長の発言にもあった『常磐学園連合同窓会(仮称)』についての説明も行われた。

その後の決議では事業計画、予算案、学校法人常磐学園の名称変更に係る同意などが満場一致で可決され、懇談会へと会場を移した。池田正則同窓会会長は「同窓会に気軽に足を運べるよう、各学年での小さな集まりを増やそうと考えています。横のつながりを密にすることで、かしこまらず楽しい会にしたいですね」と語っていた。



卒業生が詰めかけた同窓会総会 挨拶をする大堀哲名学長会長 池田正則同窓会会長

* TOPOSに対する御意見は kouhou@tokiwa.ac.jp. までお寄せ下さい。
* 古紙の利用・70%の再生紙を使用しています。